

教科	地理歴史	科目	日本史A	単位数	2単位
学科	全学科	学年	2学年		
学習目標	歴史的な諸問題について、その現状や問題点を理解し、自己との関わりにおいて主体的に探求する姿勢を身に付ける。また、様々な資料や情報等を活用して、理解するための方法を身に付ける。				
学習内容	学習項目		評価規準【評価の観点】		
	<p>第1章 近代日本の形成と19世紀の世界</p> <p>①せまってくる外国船 ②揺らぐ幕藩体制 ③黒船がやってきた ④志士たちの時代 ⑤天皇の軍隊がつくられた ⑥日本の国境が定まった ⑦爆発する農民や士族の不満 ⑧国会開設が決まった ⑨地主制が進行した ⑩立憲政治がはじまった ⑪国会がはじめて開かれた</p> <p>第2章 近代日本の歩みと国際関係</p> <p>①欧米と肩を並べる国をめざして ②清国との対立が深まった ③藩閥と政党が接近した ④ロシアとの戦争がおこった ⑤アジアへの勢力拡大がはじまる ⑥民衆が政治を動かした ⑦最初の世界大戦に日本も参戦した ⑧朝鮮・中国の民衆が立ち上がった ⑨日本は欧米に歩調をあわせた ⑩恐慌の嵐が吹き荒れる ⑪日本の外交が行き詰まる ⑫軍部の暴走がはじまった ⑬中国との長い戦争がはじまった ⑭戦争の影が文化におよぶ ⑮すべてが戦争に協力させられた ⑯アメリカとの戦争がはじまった ⑰アジア・太平洋の諸民族にかかわった ⑱生活も戦争に染まった</p> <p>第3章 第二次世界大戦後の日本と世界</p> <p>①占領軍がやってきた ②日本が生まれかわる ③民主化から経済復興へ ④複雑な環境の中での独立 ⑤奇跡の経済成長がはじまった ⑥これからの日本について考えよう</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会の大きな流れの中で、我が国がどのように対応し、国家を形成していったかを理解できる。【A・B】</li> <li>・幕藩体制の動揺期における幕府や藩の対応を時代の流れの中で捉えている。【B・C】</li> <li>・欧米文化の導入、明治政府の諸改革に伴う変化に着目し、立憲体制が確立するまでの国家形成の過程を理解できる。【A・C・D】</li> <li>・明治の近代①政策が国民の目を世界に向けさせ、近代への覚醒をもたらしたこと、その一方で日本がアジア近隣諸国に対して行ったことは、かつて欧米諸国が日本に対して行ったのと同様であったことを捉えている。【C・D】</li> <li>・国内外の情勢と密接に関連させながら、不平等条約から脱却できた意義を理解できる。【A・B】</li> <li>・日露戦争前後の欧米諸国やアジア諸国との関係を把握し、日本が韓国併合や満州などへの勢力の拡大を通じて、植民地支配を進めたことを理解できる。【B・C・D】</li> <li>・第一次世界大戦が我が国の外交・経済に大きな影響を与えたことを理解させるとともに、中国・朝鮮などの民族意識の高揚と国際協調体制について理解できる。【A・B・C】</li> <li>・世界恐慌による経済危機、全体主義の台頭による国際関係の変化を考察することができる。【B・D】</li> <li>・中国との戦争の長期化から太平洋戦争に突入していった過程を理解できる。【A・B】</li> <li>・戦時体制下における経済・思想・学問統制等によって国民が戦争に協力していく過程を理解できる。【A・D】</li> <li>・第二次世界大戦後の国際関係の推移、占領政策と諸改革、新憲法制定によって我が国が再出発していく過程を理解できる。【A・C・D】</li> <li>・サンフランシスコ平和条約によって独立を果たし、高度成長によって国民生活が向上していった過程を考察することができる。【B・D】</li> <li>・現在の我が国の当面する課題について考えることができる。【A・B】</li> </ul>		
評価の観点	【A】 関心・意欲・態度 【B】 思考・判断・表現 【C】 資料活用の技能 【D】 知識・理解				
評価方法	定期考査、小テスト、出席状況、課題、授業態度、意欲による総合評価				
教科書等	高等学校 日本史A 人・くらし・未来 (第一学習社)				
備考	日本史Aでは近・現代史を中心に学習する。				

※評価規準は、学習の到達目標でもあります。